



主な内容

特集———キャリア支援センター～学生のキャリアビジョンを拓ける～
 トピックス———附属病院エネルギーセンター前で献血が行われました
 フリーページ———すこやかスポット医学講座No.97
 「アレルギー性鼻炎に対する手術療法」
 表紙写真：病院機能評価訪問審査（関連記事p.5-7）

キャリア支援センター ～学生のキャリアビジョンを拡げる～

「キャリアビジョン」とは「なりたい自分自身の姿」であり、「人生や仕事においてなりたい自分自身の姿」を指します。こうしたキャリアビジョンを拡げるために、キャリア支援センターでは主に薬学部と看護学部の学生を対象として、就職活動の支援を行っております。今回の特集では、新型コロナウイルス感染症を踏まえたキャリア支援センターの取り組みや活動実績などについて紹介します。

■ キャリア支援センターの支援内容

◆ 進路総合ガイダンス

各学年を対象とした「働く心構え」、「キャリアデザイン」、「マナー・身だしなみ」、「就職支援システム」などの講習会を通して、就職活動に対する基本的な事柄や心構えを学びます。

◆ 実践セミナー

就職活動を行う際に必要不可欠な社会的マナーや身だしなみ、グループディスカッションに対応するための模擬訓練など、専門の講師を招いてセミナーを開催し、指導を行っております。また、公務員を志望する学生を対象として、公務員専門学校の講師による対策講座を開設しています。

◆ 個別相談

ハローワークのキャリアカウンセラーによる個別の相談を行っています。週1回午後1時から午後5時まで、キャリアカウンセラーが学生の相談に応じています。特に、就職活動を行う学生にとって大きな負担になっているエントリーシート（応募書類）の作成の仕方や面接への対策方法など、学生一人一人の希望する進路に沿って、懇切丁寧な指導を行っています。

◆ 学内企業研究セミナー

新卒の採用を予定している企業の担当者が、学生に対面で、事業概要や求人情報を提供する就職活動の最重要イベントです。病院、薬局、行政などの人事部門担当者や現場の専門職の方が一同に会し、企業毎のコーナーで個別セミナーを行います。参加事業所は、東北地方を中心に約100社にのぼり、OB・OGも担当者として多数来校し、参加学生との間で活発な情報交換が行われます。

◆ 業種研究講演会・職種別講演会

薬剤師や看護師の社会的な使命や幅広い活躍フィールドを意識してもらうため、病院や行政で活躍している専門職の方、医薬品関連企業で人事を担当されている方などを講師として招き、講演会を適宜開催しています。

◆ インターンシップ（就業体験）

社会教育の一環として、企業や薬局、官公庁等で一定期間就業体験するインターンシップは、大学と実社会を結ぶ貴重な架け橋の一つです。就職のミスマッチを防ぎ、キャリアデザイン構築の基礎となるインターンシップは、政府も積極的に後押ししており、その重要性が年々増えています。

◆ 就職情報の検索システム

WEBサイトによる求人・求職が主流となった現在の就職活動では、優れた「就職情報検索システム」の存在が不可欠です。当センターでは求人情報の検索は勿論のこと、センターから学生への速やかな情報伝達や、学生からセンターへの就職活動状況の報告を随時行うことが出来る双方向のシステム「求人NAVI」を備え、就職関連情報の迅速な共有に努めています。

◆ 教養試験対策

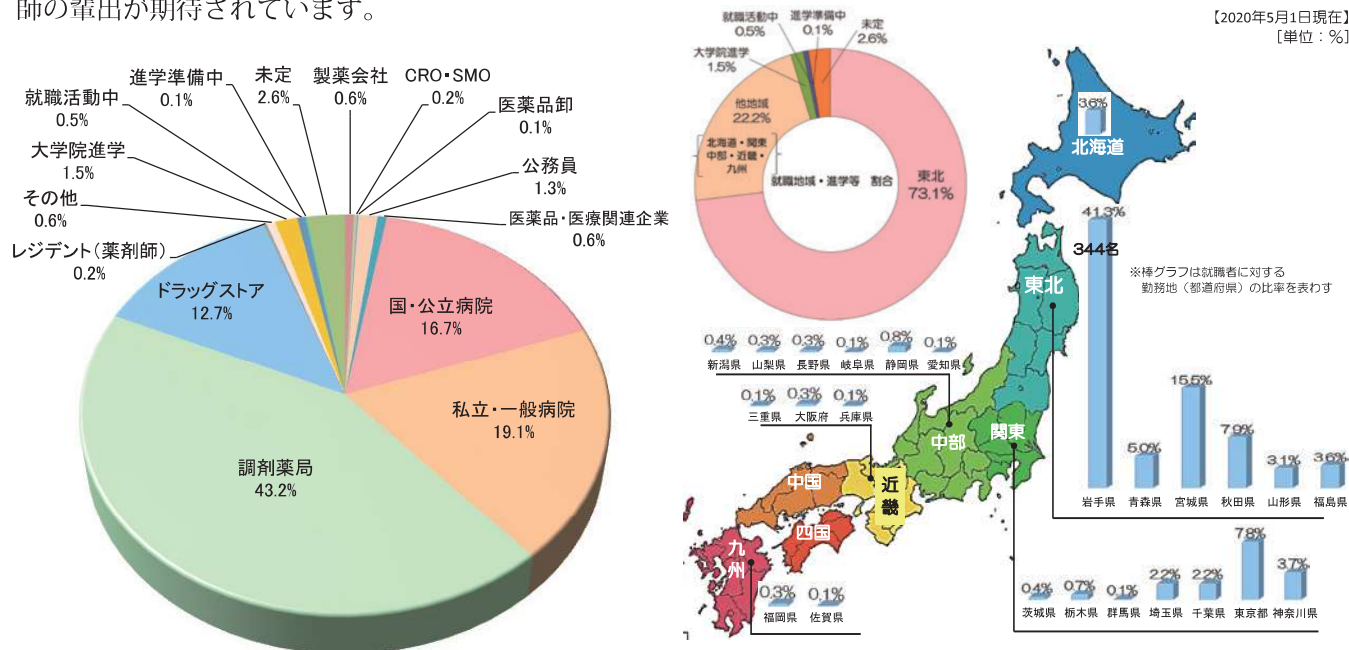
公務員、大学附属病院、公立病院の採用試験対策として、希望者向けに教養試験対策講座を本学矢巾キャンパス内で開講しています。講師は、上野法律ビジネス専門学校からお招きし、放課後や土曜日を利用して、短期集中講座として実施しております。

■ 薬学部の就職実績

薬学部では、第1期生から第8期生まで800名を超える薬剤師を輩出しております。主な就職先は、調剤薬局・病院・ドラッグストア・行政など、岩手県や東北地方を中心に様々なフィールドで幅広く活躍しています。

本学には年間約700件（2019年度実績）もの薬剤師求人が届いています。また、病院・調剤薬局・ドラッグストア等の人事採用担当者が頻繁にキャリア支援センターを訪問いただいております。採用に関する情報交換をしております。

都市部では薬剤師が飽和状態ともいわれていますが、地方では薬剤師のニーズは依然として高く、卒業して薬剤師国家試験に合格した方は、適切な支援を行うことで、ほぼ希望通りの就職ができております。また、今や岩手県内の病院薬剤師の3割強が本学出身者を占めるようになり、東北を中心に、今後も本学で学んだ薬剤師の輩出が期待されています。



薬学部第1期～第8期生の就職・進学状況（業種別）

薬学部第1期～第8期生の就職・進学状況（地域別）

■ 看護学部における就職活動支援体制

今年度は、看護学部第1期生が4学年まで進み、看護学部として初めての就職活動を迎えております。看護学部における就職活動支援は、看護学部教員とキャリア支援センターが連携して行っています。進路全般の指導・医療機関の実際・具体的な仕事内容・採用試験の実際等については、教員が相談を受け、情報提供を行います。キャリア支援センターでは、支援事業の企画運営・求人情報の提供・情報の活用方法・応募書類の添削・キャリアカウンセラーによる個別面談や面接練習などの支援を行います。その他には、学年ガイダンス（全学年）・職種別講演会（1、2学年）・キャリアビジョン講演会（3学年）・企業研究ガイダンス（3学年）・附属病院看護部就職説明会（4学年）などの支援事業を開催し、学生の皆さんのキャリア形成をアシストしています。また、看護学部専用の情報コーナーを設けており、求人情報の提供、イベントポスターの掲示等を行っております。



キャリアビジョン講演会



看護学部求人情報掲示板

■ 新型コロナウイルス感染症を踏まえた対策について

(1) WEB 面接への対応

新型コロナウイルス感染症の全国的な感染拡大に伴い、就職採用試験においてもWEBによる遠隔での面接試験を実施するケースが増えてきました。キャリア支援センターでは、希望する学生に対して、自分でWEB面接環境を構築できるよう、また、自宅等にインターネット環境がない場合にはSGL教室等をWEB面接室として利用できるよう、支援しています。

(2) 設備の対応

カウンター及び個別面談ブースでは、感染症対策として、ビニールカーテンやアクリル板を設置しております。

(3) 遠隔による講演会の実施

講演会では、講師が本学に来られない場合であっても、Zoomによる遠隔での講演を実施しており、予定しているキャリア支援事業の実施機会が損なわれることの無いよう、最大限に配慮しています。



アクリル板を設置した個別面談ブース



Zoomを活用した遠隔での講演会

■ キャリア支援センターからのメッセージ

キャリア支援センターでは、学生一人ひとりが納得のいく就職ができるよう、社会的自立に向けた実践的な能力形成の支援、就職活動の支援を行うことを目的としております。また、在学生だけでなく、既卒者へも在学中と同様に就職活動を支援しています。求人情報等の検索ができる「求人NAVI」システムのID・パスワードは卒業後3年間有効です。キャリア支援センターの窓口では、卒業後の年数にかかわらず随時対応しており、個別面談（キャリアカウンセラー）も予約の上、受け付けております。

学生が社会的および職業的に自立した個人としての自分らしい人生のあり方を追求できるよう、また、学生が一生を通じて自らの資質を向上させ、教養をもって社会に貢献できる人となるよう、今後も各種支援事業の実施、個別相談の対応等を通じて、支援してまいります。

(文責：キャリア支援センター長 中西 真弓、入試・キャリア支援課総括課長 井上 拓也)



キャリア支援センターは大学の東研究棟1階に設置されています。利用時間は以下の通りです。なのでお気軽にお問い合わせください。

■ 利用時間

平日：8時30分～17時
第1・4土曜：8時30分～12時30分

■ お問い合わせ

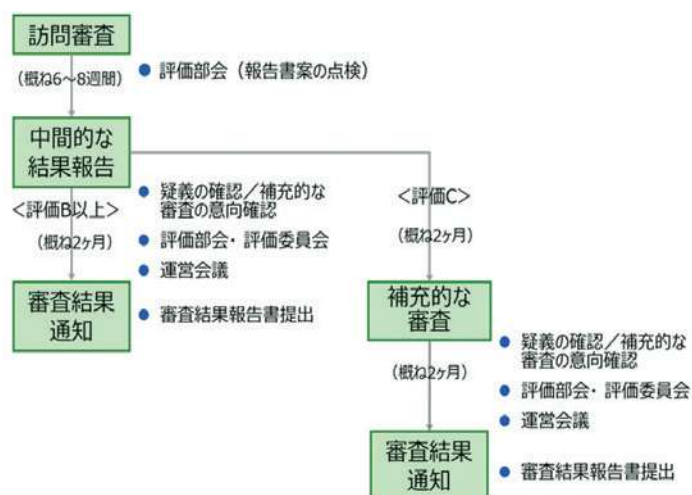
・内線番号：5365、5367
・メールアドレス：career@jiwate-med.ac.jp

病院機能評価訪問審査

8月26日(水)～28日(金)の3日間、附属病院において病院機能評価訪問審査が行われました。

本審査は、病院の基本的な活動(機能)が適切に実施されているかを評価され、病院の質改善活動につなげることが目的とされるものであり、当日は10名のサーベヤー(評価調査者)が訪問されました。

受審後は、6～8週間後に通知される「中間的な結果報告」を待ち、評価C(一定の水準に達しているとはいえない)の項目の有無を確認します。評価Cがなければ約2か月後に審査結果が通知され、評価Cがあれば「補充的な審査」を受けるか判断します。受審の申し出をした場合には、再度「書面審査」または「訪問審査」を行い、約2か月後に審査結果が通知されます。



(公益財団法人日本医療機能評価機構ホームページより転載)

審査構成

1. 書類確認

2. 面接調査

病院の組織体制や運営方針、安全確保・感染制御・質改善の取り組みなど、評価対象領域について、面接調査を行います。

3. ケアプロセス調査

訪問病棟において、典型的な症例である一人の患者について、診療録等を参照しながら、来院・外来受診、入院から退院までの一連の経過に沿って提供される医療サービスについて確認します。

4. 部署訪問

5. 医療安全ラウンド

3ヶ所以上の病棟を訪問し、「院内方針に基づく医療安全の取り組み状況」「訪問審査1日目に確認した課

題の訪問先での状況」「訪問審査1日目に確認した各安全管理責任者と現場との医療安全管理の取り組みにおける連携の状況」を確認します。

6. カルテレビュー

カルテ記載を通して「病院のカルテ記載の定常状態」「病棟における診療・ケアが適切に行われているか」「説明と同意が適切に行われているか」を確認します。

7. テーマ別調査

「患者・家族からの相談への対応」「患者の声を病院組織に反映させる仕組み」「データに基づく病院経営戦略」について確認します。

8. 病院幹部面談

病院のガバナンスについて、病院の幹部と面談します。

9. 講評および意見交換

訪問審査スケジュール

訪問1日目	
午前	開始挨拶・メンバー紹介、病院概要説明、病院の組織運営についての説明・質疑応答、書類確認・機構が指定する病棟と症例の通知、面接調査
午後 (※1)	病棟概要確認、ケアプロセス調査、部署訪問、再確認
訪問2日目	
午前 (※2)	病棟概要確認、病棟ケアプロセス調査、カルテレビュー、医療安全ラウンド、部署訪問、面接調査
午後 (※2)	部署訪問、面接調査、テーマ別調査
訪問3日目	
午前	病院幹部面談、再確認およびサーベヤー合議、講評および意見交換、終了挨拶

※1 サーベヤーが2チームに分かれて審査。

※2 サーベヤーが4チームに分かれて審査。

当日の様子

今回の訪問審査では、附属病院内の各部署を訪問し、小笠原病院長をはじめ多くの教職員が関わり、サーベイヤーからの質疑に対し丁寧に対応していました。当日の様子を写真を中心に紹介します。

1 日目の様子

訪問 1 日目は附属病院 10 階研修室にて開始の挨拶・病院概要説明の後、書類確認・面接調査が行われ、午後はサーベイヤーが 2 チームに分かれケアプロセス調査・部署訪問が実施されました。



病棟概要確認（東 6 階B病棟）



ケアプロセス調査（西 9 階A病棟）



部署訪問（集中治療室）



部署訪問（手術・麻酔部門）



部署訪問（救急外来）



部署訪問（感染対策室）

2 日目

訪問 2 日目は 4 チームに分かれケアプロセス調査・カルテレビュー・医療安全ラウンド・部署訪問・面接調査・テーマ別調査が行われました。



面接調査（事務領域）



面接調査（看護部門の業務、看護師の教育・研修）



部署訪問（化学療法部門）



部署訪問（物品管理部門）



部署訪問（病理部門）



部署訪問（中央材料滅菌部門）



部署訪問（リハビリテーション部門）



部署訪問（臨床検査部門）

3 日目

訪問 3 日目は病院全体や 1 日目・2 日目に確認した各部署のガバナンスについて病院幹部と面談を実施し、サーベイヤーからの講評や意見交換を行い、審査の全てが終了しました。



病院幹部面談



講評および意見交換

取材を終えて

3 日間の最後には、訪問審査を通して、優れた取り組みや改善点等をサーベイヤーからフィードバックがありました。それに対し小笠原病院長は「とても有意義な 3 日間でした。指摘されたことは真摯に受け止め、改善に努めさせていただきます」と語られました。本審査に関わった教職員の皆様、3 日間大変お疲れ様でした。

（大学報編集委員会事務局）

附属病院エネルギーセンター前で 献血が行われました

8月19日（水）、附属病院エネルギーセンター前において、日本赤十字社岩手県赤十字血液センターによる献血が行われました。

県内の輸血用血液の需要が増加傾向にあり、長期保存がきかない血液は十分な量を確保する必要があることから、矢巾町より献血の実施依頼があり、矢巾キャンパスに附属病院が移転してから、2回目の実施となりました。

当日は、新型コロナウイルス感染症対策として受付前の手指消毒、体温測定、マスクの着用、献血バス内の飛沫防止用シートの設置と定期的な換気や消毒が施されていました。

献血に協力した方からは、「附属病院をはじめ地域の医療に少しでも協力できればと思うので、機会があればまた献血をしたい」との感想を述べられました。

附属病院での献血の実施は今後も検討されており、次回以降は学内関係者だけでなく地域の方々も対象とし、より多くの方々にご協力いただけるよう周知される予定です。



献血バス



献血に協力している職員

附属病院1階内視鏡室前に 高性能自動販売機が設置されました

8月27日（木）、附属病院1階に自動販売機が欲しいとの患者さんの要望に応え、株式会社こずかたサービスにより内視鏡室前に設置されました。

この自動販売機は、大型液晶タッチパネルが搭載され、多言語（10カ国語）に対応している他、観光名所案内、天気予報やニュース、災害情報等の社会インフラとしての機能を大幅に強化したデジタルサイネージが搭載されています。駅や大型ショッピングモール以外の場所に設置されたのは東北地方では初めてで、新病院の景観に馴染んだ自動販売機となっています。



内視鏡室前に設置された高性能自動販売機



商品購入画面



県内の観光スポット案内

理事会報告（7月定例ー7月27日開催）

1. 教員の人事について

看護学部地域包括ケア講座 准教授

野里 同（現 看護学部共通基盤看護学講座 助教）
（発令年月日 2021年4月1日付）

2. 医歯薬総合研究所の組織改編に伴う諸規程の一部改正について

医歯薬総合研究所の組織について、分子生物学・免疫学領域の共同研究や機器の共同利用の推進を目指した分子病態解析部門、ゲノム・オミックス関連の共同研究推進・人材育成を目的としたゲノム・オミックス解析支援センターを新設し、看護学部開設のために設置した看護・政策研究部門、及び日本アイソトープ協会との協定を解約したサイクロトロンセンターは廃止し、組織規程及び教育職員の定員に

関する規程を一部改正すること、分子病態解析部門の教員は、現行の定員枠を用いて任用し、講座研究費は、他部門と同額とすることを承認した。

（施行年月日 2020年8月1日付）

3. 臨床研修医等宿舎整備に係る実施設計図案及び工事請負契約の締結について

臨床研修医等宿舎整備の基本計画について、構造は2階建の鉄筋コンクリート造、戸数30戸、入居対象者を臨床研修医、専攻医、専門研修医等とし、各居室は12帖のワンルームマンション型式、エアコン、インターネット設備等を整備すること、工程は9月8日に着工し、来年3月中旬の竣工を目指すこととし、提示の設計内容及び建築費用にて、清水建設(株)と工事請負契約を締結することを承認した。

《岩手医科大学報編集委員》

小川 彰 佐藤真結美
影山 雄太 工藤 静子
松政 正俊 工藤 正樹
齋野 朝幸 及川 弘美
藤本 康之 安保 淳一
白石 博久 佐々木忠司
成田 欣弥 畠山 正充
遊田由希子 藤村 尚子
佐藤 仁 武藤千恵子
小坂 未来 高橋 慶
藤澤 美穂

編集後記

昨年、矢巾新病院と内丸メディカルセンターが開院しこの9月で1年が経ちました。あっという間の1年だったように思います。

全国ニュースで入院患者搬送の映像が流れたことは未だに皆さんの記憶に新しいのではないのでしょうか。スタッフ総動員心ひとつに移転に関わったことは私達にとってかけがえのない財産となりました。そしてそこには自衛隊や警察などをはじめ、多くの方々の強力なサポートがあったからこそ成し遂げられたということを忘れてはいけません。

今、コロナ禍で状況が刻々と変化していますが、今後も多くの方々に支えられていることに感謝しながら、歩んでいきたいものです。

Let's Keep Walking !

（編集委員 及川弘美）

岩手医科大学報 第528号

発行年月日 令和2年9月30日

発行 学校法人岩手医科大学

編集委員長 小川 彰

編集 岩手医科大学報編集委員会

事務局 法人事務部 総務課

TEL. 019-651-5111（内線5452、5453）

FAX. 019-907-2448

E-mail: kouhou@j.iwate-med.ac.jp

印刷 河北印刷株式会社

盛岡市本町通2-8-7

TEL. 019-623-4256

E-mail: office@kahoku-ipm.jp



アレルギー性鼻炎に対する手術療法

アレルギー性鼻炎は鼻粘膜のⅠ型アレルギー性疾患であり、水様性鼻漏、鼻閉、くしゃみが3主徴とされています。本症は、室内塵やダニなどを抗原とする通年アレルギー性鼻炎と花粉を抗原とする季節性アレルギー性鼻炎に分けられますが、いずれにおいても治療法としては、抗原の除去と回避、薬物療法が中心となり、近年では抗原特異的免疫療法も行われております。多くの症例ではそのような治療で改善がみられますが、改善がみられない場合や鼻腔形態に異常を伴う場合、重症例に対しては手術療法が選択肢となります。

① 鼻粘膜の縮小と変調を目的とした下鼻甲介手術

レーザーなどによる粘膜蒸散や高周波電気凝固装置による粘膜（固有層）凝固などがあります。下鼻甲介粘膜表層から処置を行うもので出血も少なく、患者への負担も少ないことから外来手術が可能で、アレルギー症状すべてに効果が期待できます。一方では、早い時期に粘膜が再生しもとに戻ってしまうことや術後1ヵ月程度は、痂皮付着が続くことが欠点として挙げられます。おおよそ1年程度は効果が期待できます。

② 鼻腔通気の改善を目的とした下鼻甲介手術

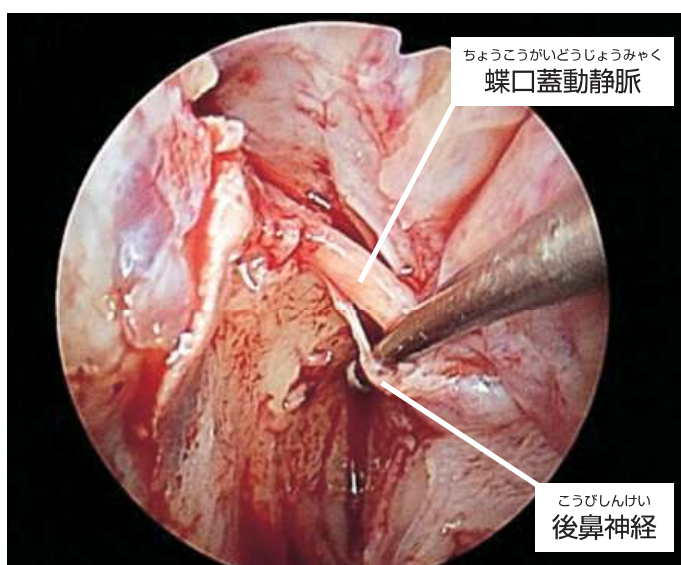
下鼻甲介切除術や粘膜下下鼻甲介骨切除術があります。全身麻酔下に手術を行うことが多く、入院治療が必要になります。術後の改善度は①の手術より高く、持続期間も長くなります。粘膜表層を温存して処置するため術後の痂皮付着も少なく、創傷治癒も迅速です。とくに鼻閉に対しては高い効果が期待できます。鼻中隔彎曲を伴う場合は、鼻中隔矯正術も施行することでさらに効果が高くなります。

③ 鼻漏・くしゃみの改善を目的とした後鼻神経切除術

鼻漏やくしゃみに関与するとされる後鼻神経を鼻腔内から切除する手術です。全身麻酔下に手術を行い入院治療が必要です。実際には下鼻甲介手術と同時に行われることが多く、アレルギー症状の改善に優れた効果があります。永久的な効果ではありませんが、少なくとも4～5年間は効果が持続すると報告されています。

最後に

アレルギー性鼻炎に対する手術療法は、比較的低侵襲なものから入院治療が必要となるものもありますが、症状によっては高い治療効果が得られるため、薬剤抵抗性のアレルギー性鼻炎症例では積極的に検討しても良いと考えられます。



後鼻神経切除（右鼻腔）

蝶口蓋孔から出てくる蝶口蓋動静脈に伴走する後鼻神経を切除する様子です。